

環境モデル都市評価アドバイザーグループからの主な意見

(平成 24 年 7 月 13 日開催)

- 地域の特性をいかした取組が多い。成果もあがっている。
- 全体を通じ、波及すべき共通の技術やソフト（資金調達・人材育成）をまとめて、発信・普及していけるとよい。
- 被災都市が前向きに考えられる取組も多かった。
- 住宅やコンパクトなまちづくりなど、都市のストック対策に目を向けている点が評価できる。再生可能エネルギーや新技術の導入など景気への波及効果を考えながら、さらに都市全体の効率化を図ってほしい。産業・運輸に比べて民生部門のCO₂削減は難しい面があることから、住宅を含め都市全体のインフラを変えていくことが重要。
- 地域独自の資源をエネルギー源にするなど、地域の成り立ちを踏まえた取組が進められており評価できる。
- 住宅のエネルギー効率化対策、木質ペレットなど個々の取組はいいものがある。今後は他都市で成功している取組にも挑戦してほしい。